

第3学年 英語科学習指導案

学級 3年3組 (男子16名 女子21名 計37名)

指導者 教諭 高橋 希枝

1 単元名 Program 6 Let's Talk about Things Japanese.

Section 1 (*SUNSHINE ENGLISH COURSE 3*)

2 単元について

(1) 教材観

中学校3年間の英語学習の中で、後置修飾は必ず身につけさせたい文法事項のひとつである。これまで生徒たちは、前置詞を用いた後置修飾と to 不定詞を用いた後置修飾を学習してきた。今回、PROGRAM 6 では、現在分詞または過去分詞を用いた後置修飾を学習する。そして、PROGRAM 7 以降は、関係代名詞の学習に取り組むことになる。つまり、本単元の学習はこれから始まる後置修飾の学習の足がかりとなる。

後置修飾の習得にあたって妨げとなるのは、日本語と英語との語順のちがいである。日本語の語順では、「修飾部が先に、修飾の対象があとに続く」が、英語の語順では逆となり、「修飾の対象が先に、修飾部があとに続く」。英語では、「詳しい説明はうしろにつける」ことを特に意識させて学習に臨ませたい。

(2) 生徒観

英語を話すことに対する意欲が高く、インタビュー活動では、自然と“Hello.”や“Thank you.”などのあいさつを英語で言える生徒が多い。また、ペア活動や小グループでの活動をスムーズに行うことができる。学力差を考慮していない座席ではあるが、グループ活動の際には英語に対する苦手意識の高い生徒を、英語を得意とする生徒が自然に助ける場面も見られる。

(3) 指導観

本単元を通して、現在分詞・過去分詞による後置修飾を習得させるために、前置詞や to 不定詞による後置修飾を復習として取り扱う。そうすることによって、「詳しい説明はうしろにつける」という語順感覚の意識付けを図り、さらに、本単元の後に学習する関係代名詞の学習との橋渡しとなるようにしていきたい。日本語の語順と英語の語順を比較したり、様々なパターンで繰り返し練習を行ったりしながら、正しい語順感覚を身につけさせていく。

また、本単元に続く My Project 8 では、伝統文化を説明するというタスクが生徒に与えられ、最終的には、スピーチの原稿をつくって発表をすることになっている。つまり、後置修飾の文を含んだまとまりのある英文を書くことが必要となる。そこで、生徒に最終目標である伝統文化の説明を意識させながら、後置修飾の文を数多く発話させることによって、後置修飾の語順や表現の定着を図っていきたい。

3 単元の目標

- (1) ペアワークにおいて、まちがいを恐れずに積極的にペアと交流する。(コミュニケーションに対する関心・意欲・態度)
- (2) 日本の伝統的なものを、後置修飾の表現を用いて一文で説明する。(表現の能力)
- (3) 英文の意味を理解し、意味のまとまりを意識して話す。(表現の能力)
- (4) 現在分詞・過去分詞による後置修飾の文の構造を理解する。(理解の能力)

4 指導計画 (全6時間)

- ・ Section 1 (文法と本文) 2時間 (本時 1/2)
- ・ Section 2 (文法と本文) 2時間
- ・ Section 3 1時間
- ・ 単元のまとめ 1時間

5 本時の目標と評価規準

(1) 本時の目標

- ・ ペアワークにおいて、まちがいを恐れず積極的に話す。(コミュニケーションに対する関心・意欲・態度)
- ・ 現在分詞による後置修飾を用いて、説明したい人物や動物を一文で表現する。(表現の能力)

(2) 評価規準 B

- ・ ペアワークにおいて、積極的にペアと交流しようとしている。(コミュニケーションに対する関心・意欲・態度)。
- ・ 正しい語順で現在分詞による後置修飾を用い、説明したい人物や動物を句の単位で表現することができる (表現の能力)。

6 本時における研究の重点について

- (1) 「課題設定の工夫」については、言語使用の必然性が分かりやすい場面設定を通して、必要感をもって生徒が学習に取り組めるようにしたい。本時では現在分詞による後置修飾を学習するが、「一文で説明する」という負荷をかけることによって、新たな文法事項を学ぶ必要性を高めていく。
- (2) 「関わり合いの工夫」については、ペアでの活動を主に取り入れ、生徒同士が自然に教え合い、学び合いができるようにさせたい。ペア活動の際は、言語(語彙や文法)習得や対話練習などの場面に応じて、ねらいを明確にして行う。
- (3) 「まとめの工夫」については、「他者に説明できるかどうか」を一つの基準として、理解できたかどうかを確認したい。そして、学んだ事柄を自分の言葉で他者に説明することで学習の定着を図りたい。

7 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点
導入 12分	1 これまでに学習した後置修飾(前置詞)を復習する。 2 新出文型を含む Teacher's Talk を聞き、意味を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 既習のイラストを使用し、「場所などの説明がうしろにつく」ことを確かめさせる。 現在分詞による後置修飾を用いなければ説明できない場面を設定する。 Teacher's Talk のあとで、新出文法を簡単に説明する。
展開 28分	Goal: 「～している○○」の形を使って、一文で情報を伝えよう	
まとめ 10分	3 イラストの人物や動物について、現在分詞の後置修飾を用いた説明を、グループ内で順番に言う。 4 教科書 p.60 の Listening と Speaking を行う。 5 教科書 p. 60 の Let's Try をペアで行う。 6 対話を通して必要な情報を現在分詞の後置修飾を用いて伝え合う活動を、ワークシートを用いてペアで取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 「説明は後ろにつける」という感覚を身につけさせる。 句 (a cat eating fish など) の単位で練習させる。 文の単位でいくつかのパターンを練習させる。(Look at the boy -ing... / The dog -ing ... is ~.) 対話の中で後置修飾を使わせる。 ワークシートを用い、基本の対話パターンをもとに、適切な動作をあてはめさせる。
	7 Basic dialog の後置修飾の文構造をペアに説明する。 8 次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 意味や、説明が後ろにつくことを説明できるようになっているか確認する。